



市役所

Q

## 不況社会の中の市財政について

A

## 市税収入が増えるよう努力する

齊藤 芳久 議員

- 質問一** 平成20年度の景気の動向をどのように受け止めているか。
- 二** 20年度、21年度の税収の予想について。
- 三** 20年度分の各交付金の歳入について。
- 四** 各分野の過年度分の滞納金の回収について。
- 五** 21年度の予算対応は。
- 答弁一（市長）** 市においては、企業の決算における業績の悪化から法人市民税の還付金が予算額を上回るなど、景気の後退の影響が表れている。
- 二** 20年度については、おおむね当初予算額を確保できるものと考えている。21年度については、厳しい経済状況が予測され、市税全体としては本年度を下回ると予測している。

- 三** 現時点では、おおむね当初予算編成時の見込みを大幅に下回ることがなく、順調な収入状況となっている。
- 四** 税収納に関するノウハウを応用し、また先進事例を参考にする。
- 五** 概算要求での一般会計の歳入歳出乖離額は約9億2000万円であり、厳しい予算編成が予想されるが、聖域なき歳出の見直しと国県支出金等の積極的活用により、めりはりのある予算編成を行う。

A

## 給付と負担のバランスで決定

Q

## 介護保険料上げないで下さい

高田 克彦 議員



介護保険担当窓口

- 質問一** 予防重視が導入されたが、その実態と問題点について。
- 二** 訪問サービス、通所サービスに抑制が強まっているか。
- 三** OP、PT、STの配置は。
- 四** 居宅介護支援事業者の経営は。
- 五** 認知症の方々の実態は。
- 六** 移送サービスの対応について。
- 七** 特養、老健の収容規模の不足について。
- 八** 第4期介護保険料の見直しは。
- 九** 国庫支出金、県支出金の割合を増やすべきではないか。
- 答弁一（市長）** これまで一定の効果を上げていると考える。今後、多くの方々の参加が課題である。
- 二** サービス提供が適正にされてきた結果であると考ええる。
- 三** 各事業所においては適正な配置がされているものと考えている。
- 四** 厳しい経営状況になっている。
- 五** この1年間で562人を確認。
- 六** 49人の登録、利用がある。
- 七** 埼玉県において着実に施設整備が進められている。
- 八** 現在より上がることが考えられる。
- 九** 継続して強く要望している。
- ◎その他の質問**
- 一** 後期高齢者医療制度は廃止しない
- 二** 将来の人口推計について